



《繁みと径 #01》2014 年 古池大介 Copyright © 2014 Daisuke Furuike All Rights Reserved.

69 年の風景，
「アウラ」の距離，
エヴァンズ，
シスキンド，
ベッヒャー，
ウォール，
シュトルート ...

トーク — 茂登山清文

風景写真の「距離」

2016. 2. 19 fri, 19 : 30-21 : 30 スノドカフェ七間町

メディアひろば_VOL.1

トーク：風景写真の「距離」

何かを撮影すると、必然的に虚空間が現像され、そこにおさめられた事物の間には距離が存在します。被写体とカメラの間にも距離はあり、時にそこに心的な隔たりも表象されます。一方で今日は、距離が限りなく圧縮される時代でもあります。そしてまた私たちの視線を独占的に集めることになったデジタルデバイスは、写真を見る者に距離的な制限を課しています。風景写真をモチーフに、写真の「距離」について、あれやこれやトピックが提供されます。

話者：茂登山清文 もとやま・きよふみ

名古屋大学大学院情報科学研究科教授。建築学を学び、現在の専門は視覚文化。特にヴィジュアルリテラシー、電子ネットワーク社会における視覚と空間について考えている。著書に『情報デザインベシックス』『可視化の図学』など。名古屋大学の芸術系授業のコーディネーター、教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」運営ワーキンググループを務める。

日時：2016年2月19日〔金〕
19：30～21：30（19時～受付）

料金：1,500円（1ドリンク付）

会場：スノドカフェ七間町

「メディアひろば」とは？

「メディアひろば」は、コミュニケーションツールの創造と考察をとおして、情報が流転するメディアとしての場をデザインしてゆきます。2016年度は研究者や文筆家をお招きし、写真や映画、アートというメディアをモチーフに「距離」についてお話していただきます。コミュニケーションにはメディアが必要ですが、メディアの介在は「ここ」と「あそこ」、「私」と「あなた」、「理想」と「現実」のあいだに距離を生じさせます。メディアにまつわる距離とはなんでしょう？メディアが距離を生じさせるのでしょうか？距離そのものがメディアなののでしょうか？みなさんと一緒に考えてゆきたい所存です。

コーディネーター：古池大介 ふるいけ・だいすけ

アーティスト。メディアアートや現代美術分野での表現活動を経て、現在は写真表現に携わる。『東京都写真美術館』、『韓国国立現代美術館』、『NTTインターコミュニケーションセンター』、『豊田市美術館』などで展覧会に参加。2015年に参加した、ヤシャ・ライハート氏キュレーションによる展覧会“Nearly Human”は、ポーランドとノルウェーを巡回。また、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、常葉大学などで非常勤講師を経た後、現在は静岡県立中央特別支援学校の臨時寄宿舎指導員を務める。メディアコミュニケーションやデザイン、教育について考えている。

Café & Dialogue
スノドカフェ七間町

〒420-0035

静岡県葵区七間町 7-8（JR 静岡駅から徒歩 13 分）

電話：054-260-6173 <http://www.sndcafe.net/>

ご予約・お問合せ：dskfrk@gmail.com（古池）